

# Newsletter No.106

## 2025年(令和7年)4月

有栖川宮記念公園にて



### チャンプニュースレター106号 目次

|                   |            |     |
|-------------------|------------|-----|
| ○山本代表のメッセージ       | .....      | 2   |
| ○アメリカよもやま話        | 山本儀子 ..... | 3   |
| ○第92回チャンプ例会報告     | .....      | 4   |
| ○第6回チャンプ散策の会報告    | 中林由行 ..... | 4   |
| ○関西支部例会報告         | 岡田 優 ..... | 5~6 |
| ○「本音の会」(復活第1回) 報告 | 神田 順 ..... | 7   |
| ○関東・関西合同会のお知らせ    | 山本儀子 ..... | 8   |
| ○活動会メモ            | .....      | 8   |

## 山本代表のメッセージ



Dear CHAMP Members and Members to be :

皆様お元気ですか？ 桜満開の時に、この「代表メッセージ」を書いています。

今世界の経済情勢は大揺れですね。当106号がお手元に届く頃にはどのような状態になっているのでしょうか。国内では米価の高騰が止まらず、4/09に政府が追加10万トンの備蓄米を開放するとの発表後も専門家は目立った値下がりを見込んでいません。一体どこに備蓄米は流れているのでしょうか。そもそもの減反政策と流通に問題があるようです。

一方、全世界にトランプ旋風「高関税」が吹き荒れています。トランプ大統領は1月20日の就任前から自らをTariff Manと称し、アメリカは世界各国から不当に関税をかけられ「搾取」されてきた、と訴えています。《貿易赤字解消と国内製造業の復活》を目指し、MAGA (Make America Great Again) アメリカを再び偉大にするのだと国民に呼びかけています。確かに日本を含め多くの国は自国産業保護のため、米国からの輸入品に関税を時に高く課しながら、アメリカ大市場への輸出を拡大享受してきました。されど資源に恵まれたアメリカが、世界No.1のGDPを誇る大国であることも事実です。日々変わるトランプ大統領の発言ですが、相互関税の高さは予想外で、「取引Deal」しなければ変えないと強気です。

私は前号で2025年は日本だけでなく世界規模の改革の年になることを願う、と書きました。その《改革》の内容は異なりますが、トランプ高関税によって全世界が《改革》を迫られています。特に日本では対米輸出の30%を占める自動車産業に25%の関税がかけられることは、日本経済全体に波及する深刻な問題です。「取引Deal」を要求するトランプ大統領に対して、効果的な取引事案を提示することが求められます。

75の国々からDeal申込みがトランプ大統領に寄せられているそうです。但し、中国は全面的に反発しています。4/10にアメリカは145%の関税を中国製品に課けると発表、中国は125%で対応することになりました。貿易戦争に加え、株とドル安・米国債売りに起因する金融危機が懸念される事態となり、トランプ大統領は関税の上乗せ分を90日間一時停止すると発表しています。果たしてこの展開はどこに行きつくのでしょうか。

**「取引Deal」とビジョン**：今後のDeal案に必要とされるのは、日本の国がこれからどのような成長を遂げたいのか、10～50年を視野に置いた長期的かつ現実的な日本の立ち位置を見極めるビジョンでしょう。日米のみならず、世界を見据えた日本の姿勢です。

★これは私達一人一人にも求められるビジョンだと思います：自分はこれからどのように生きたいか、どのような生き方が自分にとって幸せか、しっかりと考えてみましょう。チャンプの活動も、＜楽しみと希望＞を持ってその中に入れていただくことを願います。

### ★14年振りの関東・関西合同会が近づいています！：

先般メール（2/23付）でご案内した関東・関西チャンプ合同会は、予定通り5/29（木）・5/30（金）に2025年万博見学を兼ねて、大阪の天見温泉「南天苑」での交流・懇親会で開始します。現時点で18名の参加申込みを受けています。「南天苑」は東京駅や日銀本店を設計した辰野金吾氏が、料亭を移築し旅館としての改造を手掛けた由緒ある建築物です。なんば駅から南海電鉄で38分の天見駅前にある交通至便な立地です。

合同会の日程概略を本号に掲載（8頁）してありますので、ご参照下さい。5/30（金）万博に参ります。＜いのち輝く未来社会のデザイン＞がテーマの万博です。

Best wishes,

チャンプ代表 山本儀子Noriko Yamamoto

チャンプのHPは、「チャンプの会」で検索して下さい。

チャンプのメールアドレス：info@championuniversal.com（運営委員全員に同時配信設定）

敬称略：安斉洋一・上野田鶴子・高橋嗣雄・手島達夫・中林由行・山田信子・山本儀子

下記は2月中旬と3月初めのチャンプ例会で配布した「アメリカよもやま話」を一部修正・更新した内容です。まずは1/07（金）ホワイトハウスでトランプ大統領と石破首相の会見が友好的に開かれ、多くの日本国民がほっと胸を撫でおろしたことは記憶に新しいですが、その後のトランプ旋風は衝撃的な政策の連続です。「代表メッセージ」にあるように、予想外の高相互関税を各国に課し、緩和するには＜取引きDeal＞を介してのみだと公言しました。但しここで注目すべきは、そもそも昨年11月にトランプ氏を支持した主に白人の労働者は、高相互関税を支援し、4月時点でも大統領の施策に賛同していることです。今後の展開が、アメリカ経済にどのような影響を及ぼすかはまだ判らない現実です。

## MAGA (Make America Great Again) を掲げ実施中の主要政策：

### 1. 経済・関税攻勢：

自ら「Tariffマン」と呼ぶように、アメリカの貿易赤字を解消し、国内の製造業を復活させる方策として関税の世界的な引き上げ（全面反発の中国には実に145%、日本に10～25%、ASEAN諸国には24～46%、etc.）を発表。この影響は米国内での物価インフレのみならず、製造業への打撃も予測される。果たして一般庶民はどれ位この影響を許容できるのか？

世界はトランプ氏の発言に踊らされている？：昨年末、トランプ大統領の主要な経済政策立案者の一人が「我々の関税の戦略は、まず撃ち込んでみる。そして質問は後で聞くというものだ」と語ったそうである。

関税攻勢はアメリカ国内の雇用を助成するであろうか。

海外からのアメリカへの投資意欲を助長するであろうか？

### 2. 安全保障攻勢：＜前提条件＝自己防衛を強化する国ならアメリカは助ける＞

トランプ大統領は一期の時から、世界におけるアメリカの軍事負担が過大すぎる、各国がもっと自国防衛のために軍事費を拠出すべきと主張していた。日本を含め、その要求対象は拡大こそすれ減少していない。アメリカが最大の敵国・ライバルとみなす対中国への防衛戦略は強化・厳しくなる。

### 3. 移民攻勢：

国境をシェアするメキシコ及びカナダ、特にメキシコからの不法入国に効果的は施策がないまま長年困っているのが現状だ。特に麻薬などのドラッグ問題は増加の一途だ。米国内の失業率が悪化する時には不法移民対策への不満が増大する。現在の排他的政策は今後とも続く。

トランプ氏は世界を試している：パナマ運河取り戻しとグリーンランド購入案・カナダをアメリカの51番目の州にする・メキシコ湾をアメリカ湾に変名・ガザ地区のアメリカ所有化・日鉄のUSスチール買収or 投資課題、etc.

## 第92回例会報告

日時：2025年3月2日（日）14時～16時

会場：港区立生涯学習センター205号室

参加者：14名＋zoom参加2名

● 開会挨拶：安斉運営委員長

● 「アメリカよもやま話」：山本儀子代表  
「MAGAを掲げるトランプ大統領の主要政策」

1) 経済・関税攻勢 2) 安全保障攻勢 3) 移民攻勢  
(詳細については本号3Pをお読みください)

● 会員スピーチ 木下義雄 会員  
「昨今の不動産市場と売買傾向」

★日本で一番地価の高い場所はどこか？

★分譲マンションの価格の推移

・世界ランク 2024年12月時点（1LDK40㎡程度）  
1位はスイス（1.6億円） 東京は48位で4千万円（世界から見たら半額以下なので世界が投資物件として注目）  
・首都圏（1都3県）マンション価格（平均値）10年間の推移（詳細およびグラフあり）

★マンション価格上昇の要因

・人手不足と働き方改革法・2年連続で路線価平均が上昇  
・変動金利の低下（0.2%台）・エネルギーや建築資材の高騰  
・外資による投資としての購入の増加、など

★購入時の「期待表面投資利回り」の計算方法 など

（講演時間が少なかったため解説不十分な部分がありました。詳しく知りたい方は直接お問い合わせください。）

木下義雄（株）アイムブレイントラスト代表取締役  
TEL 080-5403-7041

i以上の他●野坂征男会員による「トランプ政策と中国貿易」に関するショートスピーチ、●手島達夫会員による「東急不動産のマンションの事例、なんでこんなにマンションが高くなったのか」というショートスピーチあり。

● 活動会予告・報告など

1. 新しい活動会「本音会（仮称）」（幹事：神田順会員）を3/27に開催する。（報告は本号7ページを参照）
2. 大阪・関西万博の視察を含む「関東・関西合同会」を5/29～30で開催する。（詳細は8ページを参照）
3. 第5回「チャンプ散策の会」4/24開催予定（報告は右欄参照）など



## 第6回「散策の会」報告

日時：2025年4月24日（木）10:30～15時

テーマ：新緑の有栖川宮記念公園散策と会食

行程：10:30 地下鉄日比谷線広尾駅集合⇒12時まで有栖川宮記念公園を散策⇒12:30～14:00神谷町の「南国亭」で中華料理の会食⇒14時から「麻布台ヒルズ」の再開発地区を自由視察。

参加者：14人 参加費：3千円（会食代含む）

朝は曇っていたが次第に晴れてきて暖かく、風もない絶好の散策日和、近くにお住まいの西村晴道・寿子夫妻の案内で有栖川宮記念公園を約1時間半散策した。公園の広さは約2万坪で大きくはないが起伏に富み、岡有り溪流あり池あり広場ありで樹木も多くこの時期は新緑が美しかった。花はハナミズキ、ツツジ、フジ、八重桜などが楽しめた。近くには外国人向けの幼稚園があるそうで異国語で楽しそうに遊ぶ園児達が多く居てさすが広尾という感じ。中に東京中央図書館もあり誰でも自由に入れる都心の無料のオアシスといえる。

神谷町の「南国亭」に移動し中華料理の食べ放題ランチコースを楽しんだ。料理の味はなかなか良く料金も妥当、デザートまで楽しんで満足。

その後、すぐ近くの「麻布台ヒルズ」の自由散策。此処は森ビルが20年以上かけて地上げをした話題の最新再開発地区である。街区全体の斬新なデザインに驚かされ、緑化された環境、高級な店舗、超高層のオフィスとマンションなどはちょっとバブリーではある。チャンプの運営委員会のために奥まったテラスの喫茶に入ったら、なんとコーヒーが1,800円で目が点に！セレブになるのは楽ではない。（記：中林）



## 関西支部2月例会報告 岡田 優

日時 : 2025年2月11日(火) 17:30~20:30

場所 : 美濃吉 四条河原町店 幹事: 辻義和/岡田優

参加者: 山本代表、木下支部長、浅野さん、沖さん、加納さん、北沢さん(後半の例会のみ)、辻さん、藤原さん、岡田の9名

次第 : 今回は、前回の話題提供で紹介のあった「町家をトーク25周年記念講演会」に皆で参加した後引き続き近くのレストランにて食事会をすることになりました。

- ・13:00~16:30 ■町家をトーク講演会に参加
- ・17:00~17:30 食事会会場(美濃吉 四条河原町店)に集合
- ・17:30~18:15 次回関西例会企画 & ■アメリカよもやま話
- ・18:15~食事(会席料理)+懇談(今日の講演会関連+参加者近況報告)
- ・20:15 次回開催案決定と集合写真撮影

資料 : ・アメリカよもやま話in Kyoto 2/11/2025  
・町家をトーク25周年記念講演会「京町家の魅力とその継承」資料 A4 3枚

### ■「アメリカよもやま話」他 一山本代表

・ドナルド・トランプ氏(第47代大統領)のパリ協定離脱やWTO脱退警告をはじめ MAGAを掲げた

1. 経済・関税攻勢(世界はトランプ氏の発言に踊らされている?) 2. 安全保障攻勢、3. 移民攻勢など排他的政策について状況説明し、また、パナマ運河を取り戻すとか、メキシコ湾をアメリカ湾に名称変更するとか、ガザ地区をアメリカ所有にして復興するとか、思いつくことをいろいろ言ってみて世界を試している。など1月20日の大統領就任直後1か月にも満たない期間での行動と状況を解説されました。日本への影響はいかほどになるのか、自分事として考えてゆかねばならないと思います。

・さて、次回5月の例会は大阪で東京組(?)との合同で1泊して、ついでに大阪・関西万博を観てみてはどうかとの提案があり、その計画について日時会場候補など概要が検討され、5月の27日~29日辺りに天美温泉一泊で仮決定。詳細は山本代表が東京メンバーの近畿ツーリスト勤務山田さんに依頼し調整することになりました。

### ■「町家をトーク25周年記念講演会」/ 町家をトーク運営委員会(代表岡田)主催

前回支部例会で岡田からの活動報告として「町家をトーク」の今までの活動実績と上記の講演会を計画している旨の報告をしたところ、開催順が京都の今例会を合わせて皆様の参加を頂いた次第です。そこで、講演内容の概略をご紹介します。(先の例会からの引き続きになってしまいますが、執筆者の役得ということでお許しを) ;

・講演会では、始めに町家をトーク運営委員会の代表として岡田から、「町家をトーク」活動のこれまで25年の経緯と、思い(一言でいえば京町家に関わる職人さんらの匠の技や知見=「自慢話」を、今のうちにリアルに見せて、お話しして頂き皆で勉強しよう!)について報告させて頂きました。そのうち

#### ●第1部 基調講演『京町家の魅力とその継承』では ;

中川等さん(NPO法人古材文化の会会長)からスライドを映しながら 1) その「統一性と多様性」~ 薨の波、町並みの美しさ、庇や軒裏、京格子の統一性やバリエーション、それらのバリエーションが地域、時代、生業、社会的階層など、四次元的な様相を成して、それは風土、生活の諸条件にかなっていて快適性と正当性を放っている。2) 「京町家の作法」~ 京町家の空間的・構造的構成(建物と庭の関係、通り庭などのプランなど)から見た秩序、3) 「京町家の価値と魅力」~ 文化財として、景観として、物事の繋がり、関係性の価値について、お話し頂きました。

お話の冒頭に、東山魁夷が川端康成に「京都は今描いておいて頂かないと無くなります。京都のあるうちに描いておいてください。」としきりに言われて、1968年(昭和36年)に描いた「歳暮る」の薨の続く京の街のスライド投射から始められたのがとても印象的でした。

(写真1右下: 現在ではこの薨の波が既に見る影もない有様になってきていると思います)

CHAMPメンバーからの「この京町家の形体やその形づくる街並みができたのは例えば人口の過密化などがあってのことなのか?」との成立要因についての質問には、平安京の時代に遡ったところから秀吉の町割りなど現代に残る街並み形成過程を説明して頂きました。

#### ●第2部 トークセッション「京町家の維持とそれを支える人々」では ;

この京町家を健全な形で継承してゆくのに欠かせない町家職人の立場から、その価値と今後の課題などについて思うところを語って頂きました。

パネリストとしては、大工辻勇治さん、左官佐藤ひろゆきさん、瓦葺光本大助さん。皆さんその職域団体の長を務めるほどの方々に職方の代表として集まって頂き、そして戦後ほぼ無くなってしまった出入りの「棟梁」の代わりに町家に造詣の深い建築設計富家裕久さん(京町家作事組所属)と住人代表として遠藤晃一さん(この「町家をトーク運営委員会」の委員長)に加わって頂きました。

皆さん、京町家を良い形で後世に残してゆきたいとの思いは一緒ですが、話は多岐に亘り、京町家が年に2%強ずつ滅失している状況ではあるが、「京都には仕事を出来る京町家や社寺仏閣など伝統木造建築の建物がまだ多

くあり、仕事の場としてまだまだ恵まれている。」という中で、「過去には当たり前だった“出入りの棟梁”が亡くなって相談する相手が居なくなってしまう、どうしても良いのか分からないという町家所有者が多くいる現状の指摘がありましたが、その解決策としては「棟梁と言わずとも信頼できる職人を一人持っていることで、相談すれば人脈があるので困っている問題の解決に相応しい職人を紹介してもらえる。人脈作りが大切」との意見がありました。一方各職方からは、なかなか若手が育たない時勢にあって、「後継者となってほしい人材を育てるのが難しく、しかも育ったとしてその時に、身に着けた匠の腕を存分に発揮できる良い仕事（物件）が（まだ）存在しているかも考えねばならない」などの指摘がありました。仕事が減ってゆくに連れ、「使用する材料も本来のものは限られてきており、扱う素材にしても道具にしても、その作り手も減り、いろいろあったその道の言葉・用語も廃れてしまい匠の技術の伝承も困難に成りつつあるのが現実で、技術を伝承してゆくには、各職人が一人でもよいからしっかりした後継者を作ること、それには「良い仕事（物件）を（営業をしっかりやって）見出し、作り続けることが重要」などと語られました。

他方、町家の継承には、相続税を払わんがために手放さざるを得ない町家の滅失事例が後を絶たない現代にあって、子、孫へと繋いでゆくには住人の側としてはそこそこの資力（資金）が必要となるなどの基本的課題もあります。

最後に、ファシリテーターをお願いした中川さんからは、色々な局面で繋がりというキーワードが出てきたが、モノとモノ、コトとモノ、ヒトとモノ、ヒトとヒトの繋がりがものごとの成立ちとして大切で、京町家の継承にしても「テーマ共同体」としてどう繋がってゆくかが大切なのではなかろうか、という感想で締められました。

#### ■会場を食事処に替えての懇談・近況報告など（抜粋）

今回は、自ずと参加した講演会の内容に関連した話題が中心になりましたが；

・古家の活用の話（マンションに建て替えても価格競争に巻き込まれるだけなのは目に見えているので、木造戸建てのまま改修して維持しているが、今後どう展開するか思案中）/建築の改修、用途変更などする場合などの役所許認可対応の苦労話。/空き家が近年いかに増えているかの話/・最近近隣（50年ほど前の分譲住宅地）では建て替えが増えていて、1軒の屋敷が4、5軒の新築に代わってきていて、住人が増え、子供の数も町の班内で十人居たりし、それなりに新陳代謝も進んでいる。住民人口も増えそれはよいことだが、その分庭木の緑が減ってしまって環境としてはあまり宜しくない。/我が家では外装の塗装工事をしているが、最近の施工業者は朝ピタリ8時に来て日が沈むまでしっかり仕事をしてさッと帰る割り切りの良さがあり昔の職人氣質とは大分異なるように思う/・20年ほど前に我家を改修した時に施工者

が仕上げの突板を下手に接着剤で貼り付けたがために、乾燥してきたらバンッと引き裂けてしまい最悪！そのころから既に職人の腕や知識はガタガタだった。・講演会で左官屋さんがいていたが壁土もおいそれとは手に入らなくなったので、まへの家の土壁を回収して使うなどもされるが、まあ昔の町家には戻れない。・京町家やその街並みの今後の在り方については、京都市中心部の京町家で育った経験から現在の経済社会状況を踏まえれば、市中がマンションなどに建て替わるのは最早止むを得ない。それを前提に新たな京都らしい町並みのグランドデザインをすべき。今の京町家も蛤御門の変で焼けた以降に新たに考え出された、明治から昭和初期に形づくられたデザインなので、またこれからに相応しい京都の街や住宅建築を考えればよいのではないかと。・鴨川高瀬川以東の4階建てまでの高さ制限や、重伝建（重要伝統的建造物群保存地区条例：京都で4地区が指定されている）はよいと思う。

その他メンバー近況としては；・天王寺公園内「慶沢園」の茶室の耐震改修をしていて、竣工時期が迫っている。/・周防大島の方の改修物件の世話などいくつかの相談に乗っていて忙しく、明日からもまた出かける。/

・11月に予定している「謡」の練習とゴルフに勤しんでいる。等々でした。

（写真上）美濃吉の前で集合写真、向かって左から沖さん、藤原さん、北沢さん、岡田、辻さん、山本代表、木下支部長、加納さん、浅野さん。（右下は「町家をトーク」25周年記念講演会第1部の中川等先生の講演-そのスライドは東山魁夷の京都の麓を描いた「歳暮る」）

（写真下）講演会場 状景写真。お陰様で講演会の教室は40名の定員に対し38名と盛況でした。



## 復活「本音の会（仮称）」開催報告 神田 順

CHAMP発足まもなくのタイミングで、何か活動ができないかと、2001年から2003年まで7、8回ほど「日本の現状を本音で語る会（略称：本音の会）」を開催しました。その後、休会しておりましたが、山本代表から2年ほど前に、再開してはどうかの打診を受けておりました。

そしてこの度、**3月27日（木）13時から15時まで、お茶の水のA-Forumをお借りして、復活第1回を開催することができました。**極めて断片ではありますが、ご報告させていただきます。

神田からは、挨拶を兼ねて、過去の本音の会の紹介の後、復活するにあたって、今福龍太の「霧のコミュン」（みすず書房）の冒頭扉にあるT.S.エリオットの言葉「**老いたるものは冒険者たるべし ここかあそこかは問題でない われわれは静止し、なおも動いていなければならない・・・さらに深いコミュン（精神共同体）をめざして**」がイメージに浮かんだということで、語り合う意味を伝えた。ちなみにということで、皮切りの話題提供は「地方創成」という言葉。東日本大震災の後、岩手県釜石市唐丹町で、復興まちづくりの活動を行っているが、そこで感じたこと。若者は減り、産業も縮小している中で、多くの親が子供に「帰って来なくて良い」と言うし、子供も「仕事のない古い体質のまちに帰りたくない」と思って都会に暮らしている。漁業・水産業は、農業などと同じで、楽な仕事ではないかもしれないが、やりがいのある仕事だ。帰って仕事を作るのは本人だし、まちを変えるのも自分なのだ。親も本当は「帰ってくればよいのに」と思っていたりする。そのあたりの世代間の意思疎通にも問題があるようだ。

若者の価値観をどう育てるかは、教育に負っている。日本の今の教育がおかしくなっているという指摘、モラルが教えられていない。さらには、そもそも子供が少なくなっていることに問題がありそうという話から、社会が変わらなければいけないのに、その兆しが見えないということも。江戸時代の人口3000万人で安定していたことを思うと、さしあたりの人口減少は、そんなに心配することはない。ただ、人口増のときの社会のつくり方と、人口減のときの社会のつくり方は全く異なるはずで、市場拡大政策では、格差が拡大するばかりだ。

農業政策にしても、経済政策にしても、国が法律で規制したりすることが、食糧自給の問題にしても、経営のやり方にしても、良い方向に向かっていないのは、悲しい。国としての自立とか安全保障とかについての危機感がないことも心配である。災害大国日本で、間違いなく来ると思われる東・南海トラフの大地震に対しても、東日本大震災を上回る大災害が想定されるのに、対策が取れているようにはとても見えないのは心配である。一極集中の脆弱性については、時間が迫っ

ていて何かしなくてはいけないのに、再開発による高密度化は、経済活性化の声に支えられ、ますます被害可能性は大きくなっている。地方創成の話ともつながる課題である。インフラ整備も優先順位が間違っている。「逝きし世の面影」（渡辺京二著）が、日本の現状を語る上で参考になるとの紹介もあった。

話題はさらに広く、トランプ政権の問題、中国覇権への対応なども語られたが、リタイアした我々が、我々なりに見て学んでいる現状を次世代に伝え、日本に生きる若者の参考になるとよいと思えた。もちろん、結論を出すわけでもないし、政治活動をするわけではない。とりとめもなく、それでもそれぞれに語ってもらった時間はあつという間であった。

**次回は、6月12日（木）12時から14時まで、A-Forumでの開催予定。**話題提供は、國安珣子氏と中林由行氏による、テーマ「内田祥哉（東京大学名誉教授、2021年5月3日没、享年96歳）の残した言葉『日本は鎖国した方が良いと思う』をどう考えるか」。その後、参加者からも話題提供に絡めて本音を語ってもらう。10人から15人程度での集まりにしたいと思っています。今回は、お弁当持参でしたが、次回は、食事を済ませてからお集まりいただくことになります。

（参加者 写真下：向かって前列左から、山田伸代、國安珣子、梅澤正巳、神田順、山本儀子、後列向かって左から、手島達夫、中林由行、波田野治之、高橋嗣雄）



CHAMP NL106号 20250430